欧州　～スペイン次期政権のドンキホーテと従者は誰?～

経済調査部 主席エコノミスト　田中 理(たなか おさむ)

二大政党による安定政治に終止符

昨年12月20日に約4年振りとなる議会選挙が行なわれたスペインでは、何れの政党も単独で過半数を獲得できず、連立協議が暗礁に乗り上げたことから、6月26日に再選挙が行なわれることが決まった。同国は1970年代に軍事政権が崩壊した以降の大半の時期を、中道右派の「国民党(PP)」と中道左派の「社会労働党(PSOE)」の二大政党が政権交代を繰り返し、国政運営を担ってきた。

だが、このところ新興政党の台頭が著しい。二大政党が議席を失う一方、反緊縮を掲げる左派の新興政党「ポデモス」や、元はカタルーニャ州のリベラル系地域政党で国政初参加となる「市民」の新興2政党が、それぞれ第3党と第4党に躍り出た。背景には国民生活の困窮と政治不信がある。住宅バブルの崩壊と銀行の経営難をきっかけに欧州債務危機が波及。国民の4人に1人、若者の2人に1人が失業するなど、深刻な経済難に見舞われた。また、現与党の国民党を中心に二大政党による政治スキャンダルが相次いで発覚している。

最多議席を獲得した国民党のラホイ現首相が、政権発足の目処が立たないとし、フェリペ国王からの組閣要請を固辞。第2党の社会労働党のサンチェス党首が首相候補に指名され、市民と協力し、政権発足を目指してきた。初回の信任投票から2ヶ月以内に政権が発足できなかったことから、憲法規定に基づき再選挙の実施が確定した。

政権不在の長期化や左派政権誕生も

議会選後の世論調査では、党内の不協和音が表面化したポデモスが選挙時と比べて支持を落とす一方、社会労働党との連立参加で存在感を示した市民と、共産党の流れを汲む「統一左翼」が支持を伸ばしている。国民党はパナマ文書で現職閣僚が辞任する新たなスキャンダルも表面化したが、改選後も第1党の座を死守しそうだ。社会労働党は政権発足で十分なリーダーシップを発揮できず、支持が伸び悩んでいる。またも二大政党と新興二政党が票を分け合う構図が繰り返されそうだ。政権発足が再度難航した場合に状況を打開する措置はなく、「国王が首相候補を指名」→「候補者が政策綱領を発表」→「議会の信任投票」→「2ヵ月以内に信任されない」→「議会の解散・再選挙」というプロセスを延々と繰り返すことになる。ちなみに、史上最長の政権空白は2010年の総選挙後のベルギーで、政権発足まで実に1年半を要した。

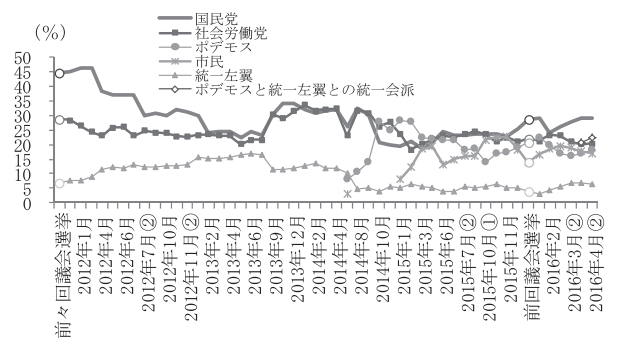
国民党が足許で支持を伸ばす市民を取り込み、連立政権を発足するとの期待も浮上しているが、スペイン国民の間には再選挙への厭戦ムードも広がっており、投票率が伸び悩む可能性がある。その場合、国民党に不利に働くことが予想される。他方、ポデモスは統一左翼との選挙協力を模索し、党勢回復の機会を窺っている。ポデモス主導の連立政権が誕生すれば、同国の財政運営やカタルーニャの独立運動への波紋が不安視されよう。

資料1　スペイン下院選挙での政党別獲得議席数

政党名	今回 (2015/12/20)	前回 (2011/11/20)
国民党	122	186
社会労働党	91	110
ポデモス	69	—
市民	40	—
その他	28	54
合計	350	350

(出所)スペイン内務省資料より第一生命経済研究所が作成

資料2　スペインの主要政党別の支持率推移



(出所)Metroscopia資料より第一生命経済研究所が作成